



1 研究紀要の完成 ～開校から3年間の歩み～

本日、先生方の机上に研究紀要を配布しております。開校から3年間の歩みをまとめた紀要です。

本来であればこの紀要を用いて、昨年の11月に全国に向けて「穂波東校の小中一貫教育」を発信する予定でしたが・・・。

穂波東校の先生方が一歩ずつ創り上げた記録が詰まった紀要です。改めて本紀要を読むと、「開校から3年間でよくここまで創り上げたなあ・・・」と感慨深いものがあります。また、本年度本校に着任された先生方にとっては「こんなことに取り組んでいたのかあ・・・」と感じる新たな発見が詰まった紀要だと思います。

学期末・年度末が近づき、日々お忙しいとは思いますが、お時間が少しでも出来ましたら、ぜひご一読下さい。



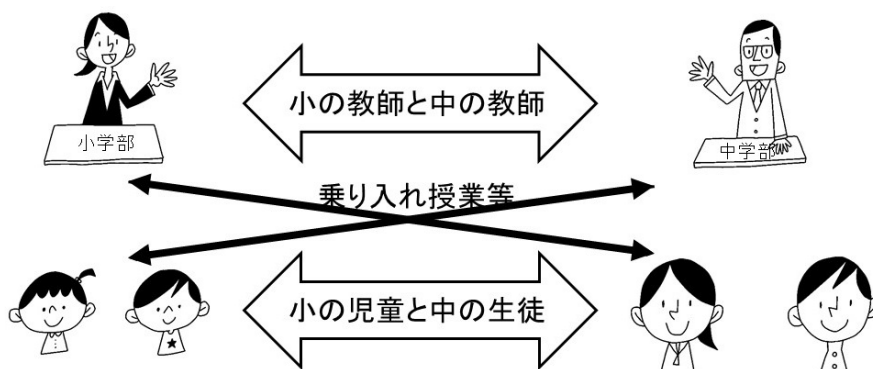
2 令和3年度に向けて ～新たな再出発～

「だより第5号」でも述べましたが、令和2年度はコロナ禍の中で、穂波東校で創り上げられた「小中一貫教育の教育活動」の多くが見送られました。

令和3年度は引き続きコロナの感染状況を注視し、コロナ対策をしっかりと講じつつ、新たな再出発にチャレンジする年度にしたいと考えています。

これも「だより第5号」でも述べたことですが、小中一貫教育の活動はその多くが、人と人が交わる活動から成り立っています。「児童と生徒」「中学部の先生と児童」等々、異質の者同士が交わることで、そこから新たな気づきや学びが生まれることが、小中一貫教育の意義であり、魅力であると言えます。小中一貫教育の肝は、「異質の者同士が互いの違いを認めつつ、コミュニケーション・コラボレーションを行うことで、そこからイノベーションを生み出していくこと」であると考えます。

これからも穂波東校の先生方の自由な発想、創意・工夫により、新たなイノベーションを生み出す小中一貫教育を共に創り上げていきたいと願っています。



異質の者同士が互いの違いを認めつつ、コミュニケーション・コラボレーション・イノベーション